

平成29年度第4回研修会報告

大阪市立大学付属植物園

研修会日時：2017年11月12日 10:00～15:00

研修地：大阪市立大学付属植物園

参加者：小西研修担当、平田ご夫妻、橋木さん、関澤さん、梶谷副会長、高橋（記録）

今回の研修地は第1回（5月14日）の研修と同じ大阪市大植物園。新緑、花の季節の森と黄・紅葉、実りの季節森を比べる趣向でしたが、みなさん珍しい植物たちの観察に気を取られ、小西研修担当が予定していた「日本の樹木見本園」を全部は回ることができませんでした。

【植物園到着まで】

京阪電車私市駅 9:38 着の電車で到着、改札口集合。駅から植物園まで普通に歩けば5分ぐらいの道のりでしたが、道草ぐせの参加者ばかりで入園したのは10:20 ごろ。

道草① 激安自動販売機

第1回の研修会でも平田さんから報告されていましたが、激安！！自動販売機は健在でした。わたしもコーヒー缶を購入。

道草② 北米からの外来種3種

途中の庭木や街路樹、道端の雑草などチラチラと見ながら植物園に向いました。園入口近くの道沿いで可愛い花を発見。濃いオレンジ色のマルバルコウソウ、ヒルガオ科の一年性のつる植物。江戸時代末期に北米から観賞用に持ち込まれたそうです。

薄い水色のアメリカアサガオ。これもヒルガオ科の一年性のつる植物。江戸時代末期に北米から観賞用に持ち込まれ、さらに戦後の輸入食料に混じって侵入したとのこと。

三つ目は淡紫色の可憐な花を咲かせていたアメリカイヌホウズキ。ナス科の一年草。名前のおり北米原産の帰化植物。全草有毒だそうです。我が家の前の道端にも生えています。

これら帰化植物は日本中に分布を広げているようです。





マルバルコウソウ



アメリカアサガオ



アメリカイヌハウズキ

【植物園にて】

入園後、日本産樹木見本園へ向います。途中、カラタネオガタマの冬芽やホトトギスの花などを観察しながら道草。



株立しているカラタネオガタマと可愛い冬芽



ホトトギス (花期は夏なのに?)



日本産樹木見本園入口

ようやく日本産樹木見本園に到着。我が国に自生している約600種の樹木のうち、約250種ほどを、常緑広葉樹、落葉広葉樹、針葉樹の順で300m余りの散策路に沿って植栽されています。見本園の入口から樹木だけでなく、いろいろな発見があり時間を取られ、なかなか先へ進めません。結局、見本園の落葉広葉樹エリアの半ばまでしか行けませんでした。



鳥の巣（メジロぐらいの大きさ？）



カトウツケオグモ♀（稀産種、滋賀では準絶滅危惧種）

【冬芽のいろいろ】

今回研修の記録担当として、テーマを冬芽の観察に絞り写真を撮りました。以下に掲載します。



カラタネオガタマ



カゴノキ



シロダモ



ホソバタブ



タブノキ



ヤブニッケイ



オオバクロモジ



サンゴジュ



ヤマグルマ



オオカナメモチ



アオキ



トサミズキ



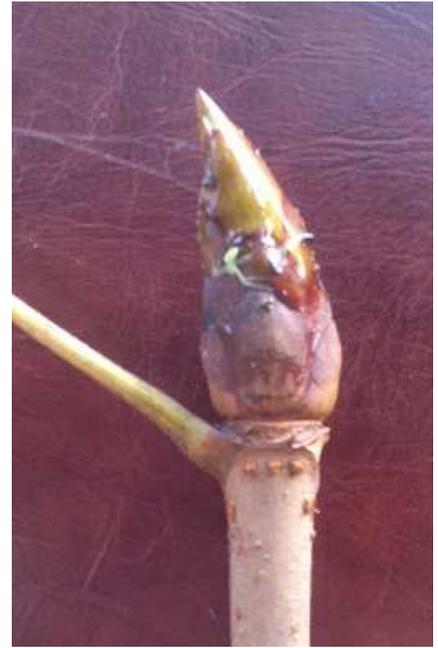
カツラ



ユリノキ



ブナ



トチノキ



サワグルミ 冬芽と葉痕



芽鱗で覆われたり、暖かそうな毛で包んだり、粘液で守ったりと樹木の冬芽は、それぞれに寒さや乾燥に耐えて頑張っているなど思わせてくれるので、観察するのが楽しみです。同じ木の冬芽でも成長時期で変化し、また個体差もあり、「あれこんな冬芽だったかな」というのがいくつかありました。アオキの冬芽もそのひとつ。曲がった爪のように見えるのですが、別の森のアオキを調べると実に様々な形や大きさの違いに驚かされました。見本園で撮った写真の形にそっくりな冬芽もあり、「なるほど」と思った次第です。

サワグルミの葉痕、ピンボケだったので、哀れに思った小西さんが鮮明な写真を送ってくれました。私の写真は携帯のカメラで撮っているので焦点が上手く合いません。小さい冬芽が撮れていないのもそのせいです。ご容赦ください。

【他にいくつか話題を拾って】

ヒイラギのトゲトゲの鋸歯は樹高が高くなると無くなることは知られています。森林インストラクターの説明でもよく使われるトピックスですが、南方系のアマミヒイラギの木でみることができました。



下の葉



中間の葉



枝先の葉

見本園の少し脇にチャンチンモドキの高木が大量の実を落としていました。センダン科のチャンチンに似ているのでこの名前だが、ウルシ科の落葉高木。奇数羽状複葉、雌雄異株。

黄色い果実は粘り気の強い果肉の中に大きな種が入っています。その種は発芽するための5つの斑点の面白い模様があり、クラフトに使えるそう。ウルシの仲間だけどもかぶれはしないようです。

